

## 漢方治療

漢方薬、どんなイメージでしょうか。苦くてのみづらそう？そんな感じでしょうか。漢方薬は「生薬」と呼ばれる自然由来の成分から構成され、比較的副作用が少なく、一般の薬では対応しづらい、「何となく元気がない」とか「夜泣きがひどい」など明らかな病気ではないけど、何とかしたい、というときにも効果をはっきりする、「痒いところに手の届く」薬です。今回は子供でよく使う漢方薬についてご説明。

（発熱の時）発熱初期には葛根湯や麻黄湯です。ゾクゾクする寒気を感じ、風邪をひいたと思ったときにはこれです。汗をかいて熱を下げる効果があります。

（嘔吐下痢）体の水分バランスの乱れには五苓散です。下痢や嘔吐、浮腫にも有効。飲めなくてもおしりから注入することもできます。ちなみにお酒を飲み過ぎて二日酔いになったときにもよく効きます。

（元気がない、朝おきられない）この症状には補中益気湯です。疲れの万能薬で気力が増し、朝すぱっと起きられるようになります。

（夜泣き）甘麦大棗湯、抑肝散、芍薬甘草湯などをつかいます。いらいらが強いなら抑肝散、即効性なら芍薬甘草湯みたいに使い分けます。西洋薬に夜泣きの薬はありませんので非常に助かります。

この他、朝からよくお腹が痛くなる緊張の強いお子さんには小建中湯など、漢方薬のカバーできる範囲は広いです。

イメージとして森の中で枯れかけている木があれば、西洋薬はその枯れかけている木に直接作用して改善させますが、漢方薬は木そのものでなく、森全体の環境を改善して枯れかけている木を治す、そんな感じですが、治療の基本は西洋薬ですが、もう一歩症状を改善したいとき、西洋薬でカバーしきれないとき、漢方薬は有効な手段となります。